

パズドラワールド

アニ好きコーラ

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したもので
す。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を
超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

20??年、パズドラとゆう任期ゲームが進化を続けた事により辿り着いた「もう一つ
の世界」での話である。

隣り合わせの世界

目

次

隣り合わせの世界

ここには、もう一つの世界がある。

えつ、どこにあるのかって？それは、この端末にあるんだよ。

「パズル＆ドラゴン」通称パズドラ、多くの人が知るこのパズドラ。そのパズドラの世界と繋がる端末、インストールした人々が行ける世界、パズドラの世界のモンスター達も自分のマスターの端末にでのみ

行き来出来る。

この話は、九十九 達也 とゆう平凡な学生が隣り合わせのこの世界を行き来したりするそんな話です。

＼家／

達「はああ～」

ベットに寝転がりながら達也はため息をしていた。

達「何なんだよ、闇フエスだつてのに木ばつかきやがる。

しゃあねえな『あつち』に行つてダンジョンでも行くか。」

ベットから起きて端末にタッチすると、画面が輝きを放ち次の瞬間

そこには広い草原と一つの家があつた。達也は家に歩み寄りドアを開ける。

——ガチャ

「「お帰りなさい、マスター！」」

そこには、バズドラに出てくるキャラ達が待っていた。

達「ただいま！」（やつぱり、和むなー。）

最初に話しかけに来たのはサクヤだつた。

サ「マスター、どうしたのですか？急にこちらに戻られて。」

達「いやー、ガチャ引いたらけど結果が悪かつたから気分転換にゼウス降臨でも行こうかと、」

サ「だから先ほど新しく仲間が増えていたのですね。」

達「まあ、そうゆうこと。とりあえず、いつものメンバーで行くから準備しろよ、パツと終わらせるから」

サ「分かりました。」

そして達也とPTメンバーは家を出てダンジョンに向かつたのだつた
（ダンジョン進行中）

PT紹介

リーダー：覚醒サクヤ

サブ 「神書の管理人メタトロン」

「覚醒バステト」

「覚醒ツクヨミ」

「綺羅の秘女神カーリー」

♪♪♪

達「なんかなー。」

達也は退屈そうに歩いている、

ツ「どうしたのですか主殿?」

達也の様子を見てツクヨミが問いかける

達「いやー、なんかこう、面白い事ないかなと思つてなー」

達也はそう言い全員を見る。

達「皆がこう、いきなり抱きついてくるみたいな展開があつてもいいんじやないかなーと、思つてよー」

サ/ツ「えつつ?!//」

カ「あらあら」

サクヤとツクヨミは顔を赤らめていた。メタトロンは「はあ」とため息をついており、それをカーリーは笑顔で眺めている。

ツ「いやつ、／＼あのつ／＼主殿が望んでいるのなら私は別に／＼＼＼

サ「えつ!? そのつゝわ、私もマスターがどうしてもとおつしゃられるなら／＼＼＼」

二人が顔を赤くしながら言い、それを見て達也は、唇の端を少し上げて、：

達「なーんてな」と、微笑を浮かべていた。

サ／ツ「「えつつ!」」

「冗談だよ。」と言つてそのまま達也は歩いて行く。

頬を膨らませながらサクヤが「ムーー」と唸つている、ツクヨミは下を向きながら小さい声で何か呟いていたていた。その後ろをメタトロンが無言で付いて行つた
カ「そろそろ着きますよー。」

カーリーに言われ最終階層の扉を開ける。達也は端末を持ち直し動かした。

この後、ゼウスはボコボコにされたとゆう。

／パズドラ界の家／

達「終わつた終わつた、」

達也は椅子に腰をおろしてそう言い放つ。

達「今回はこんな感じでいつかね。」

バ「ますたー、わたしとあそぼー」

てくてくと、寄ってきてそう言いながらバステトは竜也にじやれてきた。

達「また、明日遊んであげるから。だから今日はこれで勘弁なー」
達也はそう言い返しながらバスステトの頭を撫でた。嬉しそうな顔をして「はーい」と返事をしその場から離れた。

ふふ、と後ろの方でサクヤが微笑した。

達「どうした?なんか変だつたか?」

サ「いいえ、何でもありません♪」

サクヤはそう言いテーブルへと戻つていつた。

達「なんだつたんだ?まあいいか、今日も楽しかつたしな。」

達也はそう言いガチャつ、と端末でガチャを引いたあと、皆が呼ぶテーブルへ行くのでした。